

平成24年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

早春の候、皆様には御清米のこととお喜び申し上げます。日ごろは本校教育に御支援を賜り心より感謝しています。お陰をもちまして、本年度の学校活動も終了することができました。また、評価アンケートに御協力をいただき、貴重な御意見をお寄せくださり、ありがとうございました。本年は重点目標や評価指標を大幅に改訂いたしました。つきましては、総括評価表ができましたのでお知らせいたします。次年度も本年度の評価を基に改善を図り、さらに教育活動の成果をあげるよう努力していきます。今後とも、御指導・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年度の重点目標	課題	活動計画	評価指標	評価指標の達成度と活動計画の実施状況	評価	評価	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題			
1 学校と家庭が連携を深め、主体的に学習する態度と確かな学力を持った生徒を育成する。	計画的、効率的な授業の展開	1	シラバスを効果的に活用し、計画的な学習スタイルを確立させる。	「『シラバス』を効果的に活用し、計画的な学習ができている」評価指標3.0以上	評価指標値は、生徒1.86(-0.5)と減少し、教員3.05(+0.1)と、前年度より少し上昇した。	C	B	(評定) B	シラバスについては、生徒一人ひとりが計画的かつ主体的に学習できるように、さらに意識づけを図る。次年度は公開授業週間の期間や回数などの工夫を図り、より充実した取り組みとする。			
		2	始業のチャイムを守り、授業時間の確保を図る。	「『始業チャイム』と同時に授業を始められている」評価指標3.5以上	評価指標値は、生徒3.13(+0.2)教員3.57(+0.5)と共に昨年度より上昇した。	B						
	指導方法の工夫・改善	1	教員相互の授業参観を実施し、授業力の向上を図る。	「授業力向上に授業公開・参観授業を役立てることができた」80%以上	評価指標値は、教員3.05(+0.8)と上昇しているが、肯定的評価は78.6%に留まる。本年度より、公開授業週間を2週間設定した。	B				B	(所見) 公開授業週間を利用して教員相互の授業参観や教科会での話し合いは授業内容や指導方法の工夫・改善につながった。	アンケート等を活用して生徒の弱点を把握するとともに、情報を交換しながら的確な指導方法について話し合い、教員の授業力向上・生徒の理解度の向上をめざす。
		2	各教科で定期的に教科会を開催し、学習指導の方法の工夫や改善について検討する。	「教科会を指導の方法の工夫や改善に繋げることができた」70%以上	教科会は各教科5回以上実施。課題や改善点に加え、来年度の教育課程や新学習指導要領に沿った指導のあり方などについて話し合うことができた。	A						
		3	定期的に課題や反省ノート(定期考査・実力テスト・校外模試)を提出させて、学習内容の定着を図る。	「課題・反省ノートの提出率」90%以上	教科・科目により提出率には差があるが、概ね80%であった。	C						
		4	ペアワーク等を取り入れ、生徒が積極的に取り組めるよう授業を工夫する。	「英語の授業の各種活動に前向きに取り組んでいる」90%以上	ペアワーク等の活動や補助教材を工夫した。生徒アンケートの肯定的意見は87.2(+12%)であった。	B						
	学習習慣の確立	1	小テストを実施し、主体的に学習する生徒を育成する。	「小テストの7割以上得点者数」70%以上	教科・科目により差があるが、70%には達しなかった。また、教科によっては実施してない。	C	C	家庭学習時間は数値的には確保されているものの、学年間・クラス間で偏りがあり、学習時間に二極化が見られる。授業アンケート結果から、与えられた宿題や課題はきちんとするが、	授業を中心として、小テストを通じた地道な学習が学力向上につながるが、教科ごとの特性もあるので評価指標を工夫する必要がある。次年度は学年に応じた活用を検討する。年度当初に習慣化させ、「生活の記録」をもとにした面談を行うなど、学習習慣の定着を図る。			
		2	「生活の記録」を活用して生徒の現状を理解し、学級担任を中心に学習方法などについて適切なアドバイスを行う。	「『生活の記録』等を利用して生徒の実態を把握し、日常的に指導ができている」評価指標3.0以上	教員の評価指標値は3.33であり、生徒の現状を把握するための重要な情報源となっている。生徒は2.17(1年2.45, 2年2.32, 3年1.74)。学習習慣が整った3年生は、学習習慣が整ったため、2学期以降はほとんど使わなくなった。	C						
	目的意識を持った学習態度の育成	1	予習・復習を促す週末課題を作成し、自主的・計画的な学習の習慣を育成する。	「週末課題は学習の習慣化に役立った」評価指標3.0以上	生徒の評価指標値は2.76(1年2.95, 2年2.83, 3年2.51)であり、ある程度は学習の習慣化に役立っていると評価できる。模試の反省を週末課題ととらえれば指標は上昇する。	B	B	日々の予習と復習をもちろんのことは、考査や模試の反省をしっかりと行い実力を向上させるとともに、文武両道を実践してほしい。	教科間で連携するとともに、定期考査や模試、部活動の対外試合を考慮して、週末だけ実施するのはなく、週の前半に配布するなど、時期・分量・難易度を工夫する必要がある。3年間継続・蓄積し、「弱点把握・克服ノート」として活用できるよう、引き続き生徒への意識づけを行う。			
		2	定期考査・実力テスト・校外模試を学力の把握に活用し、学習に対する向上心を高め、目標実現に向けて努力させる。	「定期考査・実力テスト・校外模試等の反省・復習を行っている」評価指標2.8以上	「反省ノート」を活用した定期考査等の復習は、各教科で実施されており、習慣化されている。生徒の評価指標値は2.89(1年3.07, 2年2.61, 3年3.01)であった。	A						
	家庭学習の充実	1	家庭学習時間調査を実施し、家庭における学習時間が確保できるよう指導する。	全生徒の年間平均家庭学習時間2.8時間以上。3年生3.5時間以上、2年生2.8時間以上、1年生2.7時間以上	平常日の平均家庭学習時間(5回の家庭学習時間調査の平均による)は、1年2.5時間(+0.2)、2年2.4時間(+0.1)、3年3.8時間(+0.1)、全学年平均2.9時間(+0.2)であった。	A	A	自主的・計画的な学習習慣を身につけさせることは大切なことであり、学年の実態に応じて、学校全体として取り組んでいく必要がある。	生徒の学習意欲を喚起する取り組みは、非常に重要な課題である。個人や学年の実態に応じて、全教職員が一丸となって取り組む必要がある。			
		2	学年集会などを利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、家庭での学習習慣を定着させる。	家庭学習時間調査による1時間未満の生徒の割合を年度当初より10%以上減少させる	年度当初より減少した(1年29%、2年26%)が、過年度比較では二極化が進んでいる。	B						
	興味・関心を高める教育	1	教材を工夫し、生徒の興味・関心を高める、わかりやすい授業を行い、確かな学力を定着させる。	「先生の授業はよく理解できた」生徒の肯定的割合80%以上	生徒の肯定的評価は75.8%。各教科で差があった。(英語78%、数学73%、国語81%、社会82%、理科68%)	B	B	実物資料や視聴覚教材の活用など、生徒の興味・関心を高めるような授業の工夫、指導力の向上に努める	すべての事業で数値を達成できるよう、改善を図りながら事業を展開する。			
		2	魅力あるSSH事業を展開し、知的好奇心を向上させる。	「SSH事業の各種活動に参加してよかった」60%以上	全18項目の内、13項目が目標を達成した。	B						
	家庭との連携	1	P T A総会や学年P T Aへの積極的な参加を促す。	「保護者のP T A総会・学年P T Aの参加者数」前年度比5%アップ	P T A総会・学年P T Aの参加者は505名で、昨年度より若干減少した。しかし、生徒数の減少を考慮に入れると昨年並みと考えられる。	B	B	生徒や保護者にホームページの利用を呼びかけるとともに、見やすく魅力的なホームページになるよう改善する。	P T A総会や学年P T Aの保護者への周知の方法を検討すると同時に、多くの保護者が参加できるようにP T A活動をさらに充実・魅力あるものとする。			
		2	迅速にホームページを更新し、最新の情報を提供する。	「ホームページで学校生活の様子や連絡等の情報を得ることができ、助かっている。」評価指標2.7以上	毎月の平均アクセス数は約11,600件ほどで、2月中旬のカウンターは37万件を越えた。評価指標値は教員3.27(+0.56)に対し、生徒2.23(-0.57)、保護者2.52(-0.41)は減少した。	B						

平成24年度 徳島県立脇町高等学校 学校評価 総括評価表

夢を持ち、目標の実現に向けて努力し、将来、社会のリーダーとして活躍しうる生徒を育成する。	望ましい職業観・早期の進路意識の育成	1	W-ingプラン/SW-ingプランの活動、職業調べ、学部・学科研究、講演会等に積極的に取り組ませる。	「W-ing/SW-ingプランの進路学習は進路選択に役立った」評価指標 生徒2.8以上	年間計画とおりに実施できたが、生徒の評価指標は、2.58であった。(1年2.83、2年2.38、3年2.54)	B	B	(評定) B	インターネットは手軽で便利に情報を得ることができ、誤報、誤解や偏見を与える情報がある。就職・進学に役立つ情報ももちろんのこと、国内外の社会情勢が多く掲載されているが、時期や回数、内容が各学年の年間行事と調整する必要がある。	体系的な指導ができるよう、各学年・各課の年間計画を調整するとともに、活動のねらい・生徒の目標・活動の評価を毎回確認していく必要がある。指定期間の後半もこれまで以上に充実した事業となるよう努める。
		2	S S H活動への参加を将来の志望分野探しに役立たせる。	「S S H活動は大学進学後の志望分野探しに役立った」満足度60%以上	本年度の結果は60.7%で目標を達成した。	A				
		3	「道標」の内容の充実に努めるとともに、各種の進路情報をわかりやすく提供する。	「進路情報は充実している」満足度75%以上	満足度は、生徒59.1%、保護者73.7%で、どちらも目標を下まわった。	B				
	個々の希望や適性に応じた多様な進路指導	1	三者面談に加え、必要に応じて個別面談を実施するなど、きめ細やかな進路指導を行う。	「面談や個別指導を通して、生徒に応じた進路指導ができている」80%以上 「先生は面談などを通して、進路についてよく指導してくれている」評価指標3.3以上	教員の肯定的評価は95.2%、生徒の評価指標値は、3.1(-0.1)。これは、「よくそう思う」と答えた生徒が減っていることが要因のようである。肯定的評価は79.3%であった。	B	B	(所見) W-ingプラン/SW-ingプランの活動、職業調べ、学部・学科研究、講演会などは進路決定に一定の成果が出ているが、時期や回数、内容が各学年の年間行事と調整する必要がある。	近年、進路環境が大きく変化しているため、生徒への情報提供とともに、担任団を中心とした積極的な進路情報の収集及び指導に努める。全体的な生徒側の満足度は高いと思われるが、引き続き個々の進路希望に応じた細やかな指導を行う。	
		2	小論文、ディベート学習の充実を図る。	「小論文、ディベート学習は進路実現に役立っている」生徒の割合が80%以上	小論文講演会・ディベート大会等の行事を含めて取り組んだが、生徒の肯定的評価は55%と目標値を大きく下まわった。	C				
	生徒保護者が希望する進路目標の達成	1	日常の取り組みを学習成績に反映させ、進路実現に結びつける。	「生徒・保護者の希望の高い国公立大学への合格者数」在籍数の50%以上	国公立大学合格者 37名(2月28日現在 昨年同期38名)最終結果は未定であるが、推薦AO入試の段階では昨年並みの数字である。	B	B	三者面談や個別面談などを通して、きめ細やかな進路相談を実施することができた。	時間的な問題があり、ボランティア活動への積極的な参加は難しいと思われる。しかし、地域のイベントなどでの協働生士の活躍は歓迎されるので、できるだけ参加してほしい。行事の情報を得て、事前に申し込み、特定の部の生徒だけでなく、全校生に呼びかけてはどうか。	小論文指導については、国語科と連携して指導内容の練り直しが必要である。ディベートについては、より多くの生徒が関わるような活動内容にすることが重要である。生徒の希望や能力・適性を的確に把握し、粘り強く指導する。
		2	学習と部活動の両立を図りながら、生徒の自己実現に向けた指導を行う。	「部活動顧問は各種大会に向けた調整を行うとともに、生徒の学習状況を考慮して活動時間を設定している」評価指標3.0以上	短時間で効率的な活動をお願いしている。評価指標値は、生徒・保護者ともに未達成(2.9)であった。	B				
	将来、社会において活躍しうる協働意識を高める。	1	学校祭や球技大会などの学校行事へ積極的に参加することにより、協働意識を高める。	「学校祭や球技大会は生徒中心の運営で非常に楽しく充実している」評価指標3.4以上	全員参加、全員協力の活動であり、生徒の主体的な活動を援助するような運営をお願いしている。評価指標値は保護者3.2、生徒3.4、教員3.6であった。	B	B	生徒会活動やボランティア活動など、生徒が主体的・積極的に各種活動に参加するよう、その意義や必要性について更に意識づけする必要がある。	生徒の希望や能力・適性を的確に把握し、粘り強く指導する。	
		2	HR活動や生徒会活動を通して社会性を育てる。	「生徒会活動は学校生活がよりよくなるように活発に活動できている」評価指標3.4以上	生徒の自主的で積極的な発言や提案を尊重する運営に努めた。教師側の高評価(3.6)に対して生徒側の評価(2.6)は、思いのほか低かった。	B				
		3	服装や言葉の乱れをなくし、時間にけじめをつけるなど、社会人として必要な態度や習慣を育成する。	「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活ができている」評価指標3.2以上	集会時や週の初めのHRで注意喚起したが、評価指標値は生徒2.97(-0.13)、1年3.04、2年2.87)、教員2.98(-0.21)、保護者3.23(-0.06)、1年3.15、2年3.25)であった。	C				
	将来、社会に貢献しようとする人材の育成	1	ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会貢献への意識を高める。	「各種ボランティア活動には積極的に参加している」評価指標2.5以上	ボランティアへの参加を促す機会が少なかったのか、生徒の評価指標値は2.38(1年2.13、2年2.48、3年2.54)であった。	C	B		清掃ボランティア以外の活動や講演会などの機会を設けるとともに、校外の活動も幅広く紹介し、意識を高めていく必要がある。進路選択の一助となるような研修になるよう、引き続き工夫・改善に努める。	
		2	修学旅行の自主研修「企業・官公庁等訪問」やその事前研究、事後発表を充実させ、社会への関心を高める。	「修学旅行の自主研修に積極的に取り組み、社会への関心が高まった」生徒の割合70%以上	生徒の80%以上から肯定的な回答を得た。	A				
グローバル化に対応できる人材の育成	1	生徒の英語学習への意欲を高めるとともに、国際理解教育の充実やコミュニケーション能力の向上を図る。	「国際理解を深める努力をしている」生徒の割合が80%以上	「英語に興味・関心をもっている生徒」の割合は75.3%。「定期考査の勉強をしっかりとしている生徒78.7%である。国際理解に向け、ほぼ努力していると言える。	B	B		英語を使って活躍する人々からのメッセージを紹介するなど、生徒の英語学習のモチベーション向上に資する情報を発信する。		
	2	新聞、雑誌やインターネットなどから国際問題に関する情報を収集する態度を育成する。	「国際問題に興味を持って、新聞、雑誌やインターネットを活用している」生徒の割合が70%以上	S S Hでハワイ研修に参加する生徒を中心にインターネットで情報収集しているが、肯定的評価は39.6%しかなかった。	C					

3	環境美化・防災に対する意識の向上	1	清掃活動やゴミの分別に積極的に取り組み、快適な環境で学習する。	「ごみの分別は正確にするよう心がけている」70%以上	生徒の肯定的意見は76.2%、教員は78.6%、保護者は71.7%。2学期から古紙専用ごみ箱を設置した結果、分別の意識が高まった。	A	B	(評定) B	学校・教職員・高校生として災害時にどう動くか、平日昼間・休日・夜間など、あらゆる時間帯での災害を想定して、迅速かつ適切に行動できる訓練や役割分担をしておく必要がある。	今後もエコ活動やリサイクル活動を行い、環境美化についてもさらに取り組みを行う。 東南海地震を想定し、参加体験型訓練の活動も取り入れながら防災に対する関心を高める。家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。
		2	参加体験型訓練など、体験を重視した活動を取り入れ、防災に対する関心を持ち、家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。	「防災に関心を持って生活している」50%以上	防災訓練では地震体験車両を使用し、関心を持って参加できていたが、防災意識はまだ関心が低い。教員は71.4%、生徒は55.3%、保護者48.5%であった。	B				
	集団や社会の一員として協力	1	各課や学年との連携を密にし、ホームルーム活動の内容を充実させる。	「ホームルーム活動の時間は活発な雰囲気の中で積極的に取り組んでいる」評価指標3.0以上	各学年と連携を図り実施した。評価指標値は、教員は達成できた(3.1)が生徒(2.8)は、達成できなかった。	B	B	(所見) 継続した指導により、身だしなみや交通マナー面については改善されつつある。今度とも全職員が歩調を合わせ、交通安全教育を推進するとともに、必要な態度や習慣を育成しなければならない。	学年や各課の連携を深めながら、内容の充実に努める。 好ましい人間関係を築けるよう、体力面だけでなく、精神面でも指導する。また、部室を含む環境改善に努める。	
		2	部活動を通して、集団の中での役割や立場を理解し、協力できる生徒を育成する。	「部活動を通して好ましい人間関係ができていく」評価指標3.5以上	全ての活動で好ましい人間関係を構築できるような場面設定をお願いしている。評価指標には達成していない(3.2)が、肯定的意見は80%であった。	B				
	基本的な生活習慣の育成、安全教育の推進	1	身だしなみについて各クラス・各学年・学校全体で指導を強化する。また、朝のあいさつ運動を毎月実施する。	「常に校則を守ることを心がけている」評価指標で前年度を上回る。	生徒の評価指標値は3.08(-0.07)、肯定的評価は79.9%(-0.9%)と前年度より下降している。	C	B	登校時間帯、正門前が保護者の車で混雑し、非常に危ない。送迎する保護者が年々増加傾向にあるようなので、今後とも交通安全や交通マナーについての徹底した指導をお願いしたい。	家庭と連携しながら、今後も粘り強く身だしなみ指導を継続的に行う。 交通安全意識向上に向けて継続指導を行うとともに、学校と家庭・地域の連携を深め、交通事故などの未然防止に努める。	
		2	バイクの安全運転実施講習会を開き、車体検査を各学期に行う。また、登下校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底する。	「交通安全・交通マナーについては日ごろから十分に意識し、守っている」評価指標で前年度を上回る。	評価指標値は生徒3.20(+0.18)と前年度より上昇している。しかし、保護者3.19(-0.09)、教員3.10(-0.25)は前年度より下降している。	B				
		3	すべての生徒について、個人面談や家庭連絡を密に行い、関係機関との情報交換も密に行う。	「生徒の指導に関して、家庭と緊密に連携しながら適切に対処できている」評価指標前年度を上回る。	評価指標値は教員3.41(+0.14)と前年度より上昇している。	A				
	保健指導の充実	1	時節や生徒の生活状況に応じて保健だよりを定期的・臨時的に発行するなど、効果的な保健指導を行う。	「保健だよりの発行」年間10回以上	集団指導を3回実施し、歯周病予防指導などの個別指導を適宜行った。保健だよりを生徒向け年間9回・教職員向け年間1回発行した。熱中症対策・ノロウイルス感染の資料を教職員に配付し、生徒への保健指導に役立ててもらった。	B	B	芸術・文化活動への取り組みについては、アンケートの文言を再考する必要がある。 人権問題についての講演会やPR活動を通じ、人権意識を高揚することができた。	生徒・教職員・保護者の興味・関心の高いテーマや新しい情報を取り入れた保健だよりを発行するように努めていく。また、学校の実態や課題に即した集団指導や個別指導を実施する。 担任・保護者・部活動顧問等と連携し、検査や治療の必要者が確実に受診できるよう努め、事後指導を徹底させる。	
		2	計画的かつ能率的に健康診断を実施するとともに、事後指導を徹底する。	生徒全員が定期健康診断を受診し、適切な事後管理ができる。	ほぼ全員が定期健康診断を受診することができた(未検診項目のある生徒0.2%)。歯科・眼科・耳鼻科等の要治療者のうち、受診結果の提出率は低かった(6.4%)。	C				
		3	教職員に加え部活動生徒への救急法講習会を実施するなど、校内救急体制の充実に努める。教職員対象救急法講習会(年1回実施)	「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」85%以上	教員アンケートの肯定的評価は92.8%で目標を達成できている。	A				
	教育相談及び特別支援教育の充実	1	教育相談活動について生徒や保護者への周知を図るとともに、生徒の悩み相談を行い、生徒の自立を支援する。	「自分の悩みなどの相談がしやすい環境にある」評価指標前年度よりUP	評価指標値は、生徒3.13(+0.46)、保護者3.19(+0.47)、教員3.56(+0.42)と前年度より上昇している。	A	A	不登校生や相談生徒の早期発見に努めるとともに、情報を共有し、不登校認定生徒への生活指導や学習指導の体制を整える。		
		2	不登校生や悩みのある生徒について、早期の発見に努めるとともに、情報の共有を図るなど、組織的な指導体制を整備する。	「不登校生への対応が、組織的に整っている」評価指標3.5以上	評価指標値は3.62で、目標の評価指標3.5以上を達成している。	A				
		3	計画的に教相・特別支援教育に関する研修を行い、教員の専門性を高める。	「教相・特別支援に関する研修会は生徒の指導に役立った」満足度80%以上	教員アンケートの肯定的評価が97.6%、評価指標値は3.5であった。	A				
	人権教育の推進	1	人権問題講演会・「脳高人権の日」を実施するとともに、PTA総会や保護者面談等を通じ、人権問題について啓発する。	「人権問題について学んだことを、日常生活に活かそうとしている」評価指標前年度よりUP	評価指標値は生徒2.87(+0.20)。PTA総会で人権講演会を実施するなど「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」評価指標値は教員3.56(+0.14)、保護者3.07(+0.12)と、前年度より上昇した。	A	A	今後人権問題解決に向けて、外部講師を招へいするなど、研修を充実する。学校と家庭との情報の共有についてもさらに取り組みを行う。 人権学習ホームルーム活動においては、十分な事前検討会を行い、内容に応じた展開や、参加型のグループ学習を工夫するなど生徒の主体的な活動ができるよう努める。		
		2	人権学習ホームルーム活動の指導案、資料の共有化を図るとともに、参加型体験学習など体験を重視した指導を行う。	「人権学習ホームルーム活動は充実している」85%以上	学年会で検討し資料の共有化を図った結果、人権学習ホームルーム活動の授業評価での生徒の満足度は、87%(主体性83%、生徒の理解度90%)であった。	A				
	感性豊かで、調和のとれた人間性の育成	1	芸術や文化に関する活動を通して、芸術・文化について理解を深めるとともに、豊かな情操を養う。	「芸術や文化活動に積極的に取り組んだ」評価指標3.0以上	廊下に作品やポスターを展示したり、コンクールに積極的な参加を図ったが、生徒個々には実感するまでには至らなかったようだ。評価指標値は生徒2.66、教員3.05であった。	C	C	評価指標達成に向けて、日々の地道な努力を継続する。 「朝の読書」に限らず、言葉の世界や感性を豊かにする取り組みを、あらゆる機会をとらえて行う。		
		2	「朝の読書」の時間を活用して読書への関心を高め、感性豊かな生徒を育成する。	「朝の読書に積極的に取り組んだ」評価指標3.0以上	評価指標値は、生徒2.2(+0.1)教員2.7(+0.3)と共に昨年度よりわずかながら上昇したが、十分とは言えない。	C				